



重要さを増す 共同募金の役割

じぶんの町を良くする活動に

今年も「じぶんの町を良くするしずくみ」をテーマに、10月1日から12月31日までの3か月間、赤い羽根共同募金運動が展開されています。

赤い羽根共同募金は1947年（昭和22年）に始まった歴史と実績のある全国的な募金運動です。

終戦直後「国民のたすけあい運動」として始まって以来、戦後復興の一助として福祉施設などに資金を支援する活動として、その機能を果たしてきました。

様々な地域福祉活動に 役立てられます

そして60年以上を経て社会情勢が大きく変化し、地域に様々な福祉課題や生活課題が山積する中、皆さまからお寄せいただく赤い羽根共同募金の約70%は、社会福祉協議会やNPO法人、ボランティア団体、町内会などが行う高齢者、障がい者、子ども達などを支援する「じぶんの町を良くする活動」のために使われています。

残りの約30%は県全体の広域的な課題を解決するほか、「災害等準備金」として災害時の備えのために使われています。

資金面で 災害支援活動を支えます

「災害等準備金」は赤い羽根共同募金のうち一定割合を、災害に備えて積み立てる仕組みです。

大規模な災害が発生したときに、被災地支援を行う災害ボランティアセンターなどの設置・活動経費として助成されます。被災者のニーズ把握や活動するボランティアの調整等の被災者支援が行われました。東日本大震災では、この準備金がいち早く使えるお金として被災地を支えました。

また、先ごろの岩手県平成25年豪雨・大雨災害の際も、災害ボランティアセンターを設置・運営した雫石町・矢巾町・盛岡市などの各社協で準備金が活用されています。

赤い羽根共同募金は地域福祉を支える様々な活動や、被災地で展開される災害支援活動を資金面から支えています。共同募金の役割はこれまでに以上に重要さを増しています。

釜石市では市内4か所で初日街頭募金を実施。野田武則釜石市長（釜石市共同募金委員会会長）をはじめ、民生委員児童委員、行政連絡員、市役所退職者など延べ60人のボランティアが参加しました。今年も釜石シーウェイブスのゼネラルマネージャーと選手も参加し、市民の激励を得ながら募金活動を応援しました。釜石市共同募金委員会では本年度から3年ぶりに戸別募金を再開。市民の協力を頂きながら少しずつ震災前の活動に戻れるよう取り組んでいます。



赤い羽根共同募金開始セレモニーには、県共同募金会の桑島会長や関係者、民生委員、福祉施設の利用者らが参加。今年から共同募金を応援する岩手ビッグブルズが「赤い羽根サポーター」宣言。参加者は街頭で募金を呼び掛けました。

平成25年度豪雨・大雨災害に 「災害等準備金」を活用

矢巾町社会福祉協議会・矢巾町共同募金委員会

平成25年7月26日と8月9日の記録的な集中豪雨により、県内の5市7町1村で甚大な被害が発生し、中でも被害の大きかった雫石町では災害救助法が適用されました。

特に被害の大きかった雫石町、矢巾町、盛岡市の各社は、災害ボランティアセンター（以下、災害V(C)）を設置。県内外から合わせて延べ約4,000人のボランティアが、各地域の田畑の土砂搬出、家屋の泥出し、家財道具の搬出などの活動にあたりました。

県共同募金会では現在、申請のあった社協に「災害ボランティア活動支援資金・活動拠点事務所支援資



谷村雄二 会長



細川由子 主任



矢巾町災害V(C)の活動の様子

金」として災害等準備金の助成を決め、順次助成しています。

なお、県共同募金会は「岩手県平成25年度豪雨・大雨災害義援金」を募集（期間は8月14日から9月30日まで）し、とりまとめた義援金は義援金配分委員会（県、日赤岩手県支部、県共同募金会等で構成）により被災者に配分されます。

**地域に還元される
共同募金を実感**

矢巾町では8月9日の記録的な集中豪雨で河川が氾濫し、多数の家屋が浸水（床上浸水98戸、床下浸水300戸以上）しました。（※9月26日時点）

矢巾町社会福祉協議会（谷村雄二会長）では、同日、災害V(C)を設置しました。

災害V(C)運営の窓口対応とマッチングを担った細川由子主任兼福祉活

動専門員は「住民の災害支援を通じて災害時の社協及び共同募金委員会の役割が明確に分かりました。全職員が初動期の窓口対応やニーズ調整などに携わったことで、職員意識も大きく変わりました。ニーズの終息に伴って9月13日にセンターを閉所しましたが、住民からのニーズがあればいつでも対応します。」としたうえで、「県共募に活動拠点事務所支援資金を申請し、一部助成を受けたことで、共同募金が地域に還元されているという実感を得ています。また、町民の皆さまにも共同募金についてPRすることができたと思っています」と話しています。

谷村会長は「大雨災害で多くの方々から支援を頂きました。共同募金の助成を最大限に活用するにはどうあるべきか、職員と話し合っています。町民の支え合い意識を高めながら、目に見える地域福祉活動を定着させていきたい」と強調。

なお、災害V(C)には京都や東京などのほか、「3・11の恩返しをしたい」と被災地の宮城県や岩手県沿岸部の方々のほか、高校・大学生など延べ672名のボランティアが

参加。

家屋の土砂・流木などの撤去作業、家屋の泥出し、家財道具の搬出など94件のニーズに対応しました。

「赤い羽根サポーター」は地域の福祉の応援団「私たちは赤い羽根共同募金運動の趣旨に賛同し、赤い羽根サポーターとなり、本運動に協力することを宣言します」
(平成25年10月1日)



岩手ビッグブルズ「赤い羽根サポーター宣言」



**積極的に
福祉活動に協力**
岩手スポーツプロモーション
山口 和彦 代表取締役

2011年の東日本大震災後にプロスポーツチームを結成したのは、一日も早く被災地の方々に元気になって欲しいという励ましの思いからでした。地域密着型のチームとして県民の皆さまの希望や元気につながるよう、一生懸命に闘います。今後は地域に貢献するプロチームとして積極的に福祉活動に協力していきます。



**岩手のために
「夢」を咲かせます**
岩手ビッグブルズ
千葉 慎也 選手

震災の年にチームが結成され、被災地支援に訪れながら、支えあう大切さを学びました。共同募金に協力できることは自分たちの励みともなり、嬉しく思っています。私たち岩手ビッグブルズは皆さまの応援あってこそこのチーム。チーム仲間と力を合わせて岩手に「夢」を咲かせよう頑張ります。

「赤い羽根自動販売機」が募金箱に 地域の福祉みんなで参加

奥州市社会福祉協議会・奥州市共同募金委員会

若い世代などに共同募金を周知することの重要性とあわせて、参加しやすい募金環境をつくる取り組みが進んでいます。

岩手県共同募金会では飲料メーカー及び自動販売機メーカーのご協力を頂き、「赤い羽根自動販売機」設置による募金活動を推進しています。

企業の社会貢献につながる赤い羽根自動販売機は、飲料を購入の際、その売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される仕組みです。赤い羽根自動販売機の設置契約の際、協賛企業と設置主様の設定した割合で寄付ができます。新規の設置のほか、既存の自動販売機をそのまま赤い羽根自動販売機に切り替えることも可能です。県内の赤い羽根自動販売機を活用

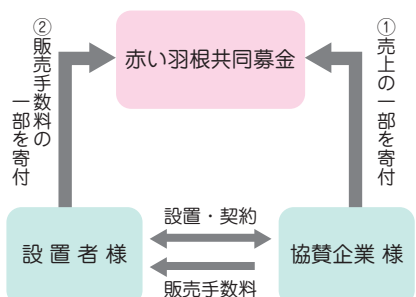


市社協が入居する市総合福祉センターにも赤い羽根自動販売機が設置されています。写真は設置の普及・拡大を図る須藤主事

赤い羽根募金自動販売機について

岩手県共同募金会では飲料メーカー及び自動販売機メーカーのご協力を頂き、「赤い羽根募金自動販売機」設置による募金活動を推進しています。詳しくは県共同募金会または市町村共同募金会(各社会福祉協議会)にお問い合わせください。

- (例)①赤い羽根自動販売機での飲料の売上の一部を寄付
②赤い羽根自動販売機の販売手数料の一部を寄付
その他、売上本数ごとに毎月寄付など、ご協力内容をご選択いただけます。



*販売手数料からの募金は、協力会社を通じて赤い羽根共同募金に寄付されます。
*岩手県共同募金会は、寄付金に対する領収書を発行しています。

赤い羽根自動販売機 設置協力企業(本会と 覚書を締結している企業)

- NPO法人ハートフル福祉募金(仙台市)
- 株式会社伊藤園
- ダイドードリンク株式会社
- みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
- みちのくキャンティーン株式会社
- 株式会社エース
- ナショナル・ベンディング株式会社
- 三陸自販機
- サントリービバレッジサービス株式会社

(覚書締結順)

奥州市では14台設置 商工会議所などに協力を要請

奥州市共同募金委員会は社協合併後の平成22年から赤い羽根自動販売機設置促進に重点的に取り組んでいます。現在(10月1日時点)市内に14台が設置されています。設置箇所は市総合福祉センターや

した平成24年度の募金実績は、協賛企業は9社、設置台数は109台、寄付実績1,545,762円となっています。東北では宮城・山形県に次ぐ実績です。県内の市町村共同募金委員会(各市町村社会福祉協議会内)では、法人・企業などへ一層の普及拡大を図るためチラシを製作し、募集に努めています。

コミュニティセンター、高齢者福祉施設、信用金庫、図書館、パチンコ店などと多岐にわたり、平成24年1月から平成25年12月までの寄付実績は512,567円と、県内では高い実績を示しています。

今年度は高橋光夫会長と青木淳一郎常務理事(事務局長)が、奥州商工会議所のほか農協、工業団地、福祉関連施設などへ出向き、設置協力を要請しています。反応は思いのほか上々で「募金箱より効果的。社会貢献につながる」と数社が設置を検討中です。

青木事務局長は「高齢化、少子化、過疎化など地域には課題が顕在化しており、共同募金は住民を支える地域福祉事業に必要不可欠です。募金活動も助成の使途も時代にマッチした取り組みが求められています」と強調。

須藤麻生地域福祉課主事は「共同募金は社協活動を資金面から支える大切な財源のひとつです。赤い羽根

岩手県立大学「いわてGINGA-NET」の活動がCMに

岩手県立大学学生ボランティアによる復興支援プロジェクト「いわてGINGA-NET」(2011年夏スタート)は、これまで延べ1万人が全国から参画し、仮設住宅などを中心にコミュニティ支援を行っています。



その支援活動は中央共同募金会が制作したテレビCM「岩手被災者支援編」でYouTubeでご覧いただけます。

CMに登場する「赤い羽根女子」は、釜石市平田仮設住宅談話室で支援活動する「お茶っこサロン」メンバーのひとりです。近く県共同募金会ホームページに掲載されます。
<http://youtu.be/v5BkGoifKX0>

自動販売機の設置台数が増えることは、誰もが気軽に募金できる機会が増えると同時に、助けあい・支え合い意識を高めることにもつながります」と話しています。

なお、奥州市共同募金委員会の平成25年度の赤い羽根共同募金目標額は2,615万円です。

①いざという時のための防災活動



②除雪で地域住民が交流



③地域の子どもたちを応援



④笑顔がひろがりました



⑤介護予防教室や昼食会に活用



⑥県民の皆様からのプレゼント



安全・安心の地域づくり支援事業

①防災福祉マップを作成・配布し、避難訓練(炊き出し)を実施しました。常に危機管理意識を忘れず、高齢者、子ども、要援護者に優しい地域づくりに励んでいます。
松園町第一地区自主防災会・自治会(花巻市)

福祉のまちづくり支援事業

②高齢者が多い地区で除雪に難儀していました。除雪車の整備をきっかけに若い世代と交流が深まり、地区をあげて除雪活動を行っています。
天神台自治会(遠野市)

③次の時代を担う児童を心身共に健やかにさせるため、跳び箱などのスポーツ用具を整えました。子どもたちは大喜びしています。
未来の扉(北上市)

④これまでサロンでのレクリエーションは、遊び道具をつくったり他から借りてきたりしていましたが、参加者が輪投げやオセロを笑顔で行っている様子を見ると、運営にあたる私たちもうれしい限りです。本当にありがとうございました。
ふれあいサロンつくし会(久慈市)

⑤お互いにじぶんの得意な手芸を教えあったり、身近な話題を話し合ったりしながら和やかなひと時を過ごしています。血圧計が設置されてからは健康管理に気がつくようになり助かっています。昼食会では冷蔵庫やオーブンレンジがあるため調理が便利で助かっています。
佐原第一自治会(宮古市)

施設整備

⑥共同募金の助成は県民の皆様からの素晴らしいプレゼントです。おかげさまで10人乗り送迎用車両を購入しました。これまで7人乗り車両1台で送迎していましたが、一気に倍以上の利用者を送迎できるようになりました。
(特非)ハートピュア盛岡風の又三郎(盛岡市)

岩手県共同募金会

あなたの募金をあなたのまちの福祉に役立てます

ボランティア団体、町内会などの地域福祉活動事業のために

1,050万円

火災などで被災した世帯への見舞金や災害時の活動支援のために

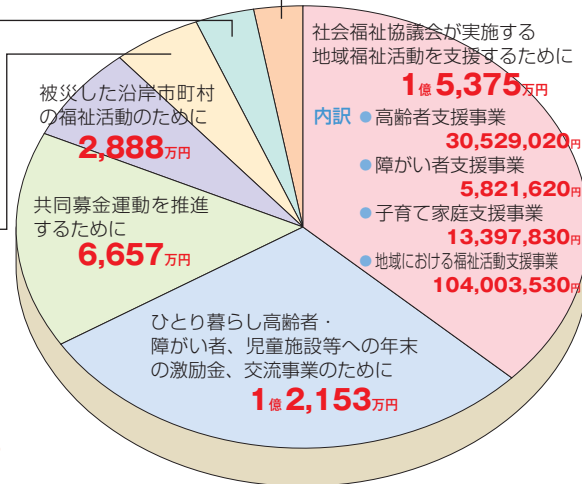
1,398万円

社会福祉施設利用者へのサービス向上に向けた施設整備のために

2,087万円



今年度の目標額と使いみち



今年度の目標額

3億9,961万円

赤い羽根募金 2億5,097万円

歳末たすけあい募金 1億4,864万円

※共同募金は、使いみち(助成計画)をもとに目標額を掲げ、皆様に支援をお願いしています。

平成24年度の共同募金実績

3億4,250万円

(内訳)

赤い羽根募金

2億362万円

歳末たすけあい募金

1億3,888万円

「赤い羽根3・11いわて沿岸地域応援募金」沿岸8市町村の地域福祉活動を応援

東日本大震災で被害を受けた沿岸市町村を応援するため、平成26年の1月から3月まで「赤い羽根3・11いわて沿岸地域応援募金」を行います。この募金は下記の事業を行うため募集するもので、応援したい事業を選択できます。

宮古市	「みやこの被災者と市民の生活に潤いと活気を！」 被災者や市民が野菜づくりを通じ、誰もが復興に向けて前向きになるよう支援!
大船渡市	「たまには、かえっぺし 大船渡」 秋刀魚漁の時期、市外避難者に帰省へのきっかけをつくり、被災者に元気を!
陸前高田市	「町内会を復活させるための助成金」 被災者の地域行事を復活させたい! 皆で作ろう地域の輪!
釜石市	「見守りネットワーク強化事業」 新たな見守りシステムの構築で、被災者に寄り添う支援を充実!
大槌町	「大槌祭りで会いましょう」 町外の避難者と大槌祭りを楽しみ、ふるさとでつながる未来!
山田町	「オレたち自慢の基地をつくりたい」 自分達で作る木造の憩いスペース!
田野畑村	お座敷列車deサロン 三鉄で結ぶ地域の和!
野田村	「つながる結このだサロン」 ふれあいいいきいきサロン活動の充実で、住民の交流が広がる! つながる!